

# 日本バイオベンチャー推進協会 (JBDA)

## 知的財産講座 (第1回～第5回、全5回)

日程：2020年10月16日(金)～12月18日(金) 18:30～20:30

会場：LIVE配信セミナー (自宅・会社に居ながら聴講可能)

聴講料：

非会員：40,000円(税込)

会員：無料

学生：10,000円(税込)

(上記の料金は、5回通して聴講される場合の割引価格；単回でお申し込みの場合は、  
非会員 10,000円、学生 3,000円)

申込み手続き：お申込みフォームにご記入のうえ、送信してください。

主催：日本バイオベンチャー推進協会 (JBDA)

後援：経済産業省

### 本講座の趣旨

近年、特許を中心とする知的財産の重要性が高まる中、企業、大学、研究機関において、研究活動を推進するためには、知的財産に関する適切な対応が必要不可欠である。とくに、バイオ分野、医薬品分野においては、技術革新が急速に進展していることから、最新事情に基づいて、最適な知的財産戦略を構築することが重要である。また、今般のコロナ禍において、ニュー・ノーマル(新たな日常)が浸透する中、国家戦略として、新たな知的財産戦略の検討が提案されている。このような認識の下、本講座では、バイオ分野、医薬品分野を対象として、知的財産に関する最新情報と有益な知見を提供する。具体的には、複数回にわたって、さまざまな専門家により、それぞれの観点からユニークな知的財産戦略について解説する。とくに、JBDAとしての特徴を活かして、ベンチャー精神に基づいて、チャレンジングな知的財産戦略について提供する予定である。

## 本講座のスケジュール

### 第1回 特許実務のポイントと最新事情 (2020年10月16日)

講師：青山特許事務所 顧問弁理士 加藤 浩（もと特許審査官・審判官）

### 第2回 バイオ医薬に関する特許出願の傾向と権利化の課題 (2020年10月30日)

講師：青山特許事務所 顧問弁理士 加藤 浩（もと特許審査官・審判官）

### 第3回 ライフサイエンス・医療・ヘルスケア産業の事業戦略 (2020年11月13日)

講師：株式会社 東レ経営研究所 特別研究員 成戸 昌信

### 第4回 医薬品研究開発のための薬事と知財の連結戦略 (2020年11月27日)

講師：ティア・リサーチ・コンサルティング合同会社 代表 内海 潤

### 第5回 オープンイノベーションにおける特許戦略 (2020年12月18日)

講師：株式会社 AdipoSeeds 代表取締役 宮崎 洋

## 本講座の内容

### ☆第1回 特許実務のポイントと最新事情

#### ◆講演趣旨

第1回の講演では、特許実務のポイントと最新事情について紹介する。具体的には、バイオ領域や医薬品分野において、特許情報の活用方法、特許権の活用方法（権利維持・放棄の基準など）、特許審査の最近の考え方、欧米諸国との比較などを行う。また、コロナ禍によるニュー・ノーマル（新たな日常）に対応した知的財産戦略の在り方について検討する。

#### ◆講演項目

1. 最近の特許情勢
2. バイオ医薬における特許情報の活用方法
3. 特許権の取得と活用方法
4. 特許審査の最近の考え方
5. 意見交換

・ニュー・ノーマル（新たな日常）における知的財産戦略の在り方

◆講師：青山特許事務所 顧問弁理士 加藤 浩（もと特許審査官・審判官）

## ☆第2回 バイオ医薬に関する特許出願の傾向と権利化の課題

### ◆講演趣旨

第2回の講演では、バイオ医薬に関する特許出願の傾向と権利化の課題について紹介する。具体的には、バイオ医薬に関する特許出願の現状と分析、登録特許に関する分析、関連する課題と解決法、欧米諸国との比較などを行う。また、医薬品ニューモダリティに対応した知的財産戦略の在り方について検討する。

### ◆講演項目

1. 国際的な特許情勢の現状
2. バイオ医薬に関する「特許出願」に関する分析
3. バイオ医薬に関する「登録特許」に関する分析
4. 医薬品ニューモダリティと特許審査の考え方
5. 意見交換
  - ・ 医薬品ニューモダリティに対応した知的財産戦略の在り方  
(人工知能による創薬研究 (A I 創薬)、デジタル医療などを含む)

◆講師：青山特許事務所 顧問弁理士 加藤浩（もと特許審査官・審判官）

## ☆第3回 ライフサイエンス・医療・ヘルスケア産業の事業戦略

### ◆講演趣旨

第3回では、スタートアップの実践的成功（プラクティカルイノベーション）について議論する。知財（新しいサイエンス）をベースに新しい事業を企画し、運営して、事業化に導く上で、優秀な人が優秀な戦略で進めてもなぜうまくゆかないことがあるのか。実例を含めて反省すべき要件から、リーダー（人）など、成功の形と プラクティカルイノベーションについて考えたい。

### ◆講演項目

1. スタートアップの忘れもの1. サイエンス（知財）
2. スタートアップの忘れもの2. 品質

3. スタートアップの忘れもの3. プラクティカルイノベーション (MOT)
4. リーダーの忘れもの (プロデューサー、覚悟と品格、事業計画、契約)
5. 意見交換：バイオベンチャーが成功するために人、プラクティカルイノベーション

◆講師：株式会社 東レ経営研究所 特別研究員 成戸 昌信  
フロネシステムコンサルティング代表

#### ☆第4回医薬品研究開発のための薬事と知財の連結戦略

##### ◆講演趣旨

医薬品事業を保護するためには、「特許で守る」のが一般的な認識であるが、「薬事で守る」ことは新薬メーカーでは常套手段である。新薬の特許権で保護できる期間は上市後5～10年とも言われ、その後は「薬事で守る」ことが主体となる。また、特許権はライセンスという形で他社から“購入”もできるが、薬事承認は事業企業自らが取得しなければならない。このように、医薬品研究開発では薬事戦略こそが出口戦略であり、これをベースにして、知財戦略と事業戦略を考えるべきである。本講演では、研究段階からの薬事と知財の連結を戦略とした創薬の研究開発戦略を実例を含めて解説する。

##### ◆講演項目

1. 医薬品研究開発における薬事戦略（事業化のための出口戦略）
2. 医薬品研究開発における知財戦略
3. 医薬品研究開発における薬事と知財の連結戦略
4. 創薬成功例に見る医薬品研究開発の薬事と知財の連結性
5. 薬事戦略と知財戦略の本質的要件となるPatient Centricityについて

◆講師：ティア・リサーチ・コンサルティング合同会社 代表 内海 潤  
公益財団法人がん研究会（がん研究所／有明病院）シニアアドバイザー

## ☆第5回 オープンイノベーションにおける特許戦略

### ◆講演趣旨

第5回の講演では、オープンイノベーションの根幹を成す特許戦略と特許事情について紹介する。具体的には、バイオ医薬品を中心に、企業と企業間あるいは企業と大学間のオープンイノベーションにおける特許出願から権利化、特許権のライセンス、リスクなどについて事例を用いて紹介する。また、オープンイノベーションを促進するための一般的な知財支援事業にも言及する。

### ◆講演項目

1. オープンイノベーション（産学・産産連携）
2. オープンイノベーションにおける特許戦略
3. オープンイノベーションにおける知財リスク
4. オープンイノベーション促進のための知財支援事業
5. 意見交換

◆講師：株式会社 AdipoSeeds 代表取締役 宮崎 洋